

■ OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社アール・エフ・ラジオ日本 様

OnAir 2500 -12



第6スタジオを OnAir 2500 で更新



株式会社アール・エフ・ラジオ日本
メディア推進局 技術部
國富 誉

第6スタジオについて

2010年6月、ラジオ日本では、東京支社第6スタジオの音声卓の更新工事を行いました。このスタジオは、CM制作や番組収録など、録音専用として使用しています。これまでは、設備の老朽化による不具合や音声卓の設定の問合せが頻繁にあり、とても手のかかるスタジオでした。大々的な更新ではなく、音声卓の更新のみで、これまで使用していた録音・再生機器などは流用しました。

OnAir 2500 の選定理由

録音作業は、基本的に制作スタッフがスタジオ内の全ての機器を一人で操作します。制作スタッフが誰でも簡単に扱えるよう、操作性に長けていて、信頼性も高く、安定して使用できる音声卓を検討した結果、OnAir 2500 が条件に合っていると考えました。当社では昨年、第1スタジオでOnAir 3000を導入しており、制作スタッフもSTUDER製音声卓については基本操作に慣れていますが、また、トラブルもなく、信頼性が高く、安定している音声卓であると考えてお

ります。最も大きな決め手となったのは、既存のスタジオシステムが音声卓を更新した際にそのまま移行できるかどうかでした。何度も検討を重ねた結果、GPIOの設定でユーザーの要求通りに制御（カフ制御、TB制御など）ができるという点でも、当社第6スタジオに最もふさわしい音声卓であると判断し、導入を決めました。

すべて自前工事！

実は今回の更新工事は、工事期間2日間の当社技術スタッフによるものです。当社にて音声・制御系統図を作成して、STUDER営業担当者とは度重なる打合せを行いました。制御（カフ、TB、機器制御等）に関して、既存のシステムを流用できないかなど、細かくすり合わせを行いました。その結果、全てOnAir 2500の内部設定で制御可能になることがわかり、システム工事は自前工事で行なうこととしました。音声・制御ケーブルを必要本数分製作し、OnAir 2500の設定を熟知し、事前に既存システムに音声卓を仮設置し、シミュレーションを行い、正常に動作することを確認し、工事に臨みました。

工事当日は自作した系統図どおりに音声・制御回線を接続していき、STUDER営業担当者に音声卓の設定をしていただき、音声レベルの調整、機器制御の動作確認した後、実際に収録の

シミュレーションまで行い、問題がないことを確認しました。自前工事ということで、苦戦するかと思いましたが、全く問題なく、予定通り工事が終わりました。

運用後の感想

当社としては、2年連続でSTUDER製の音声卓を導入しました。最初に設定を正確に行なっていれば、基本的にはフェーダーの上げ下げで充分収録できますし、入力出力素材の変更が簡単にできるのが大変便利です。また、EQ、COMPもメインスクリーンに表示され、細かい調整がビジュアル的に出来るところが申し分ないです。工事の翌日からの運用開始でしたので、簡易マニュアルを作成しただけで、制作スタッフ向けのトレーニングは特に実施せず、スタジオをリリースしましたが、OnAir 3000に慣れている当社制作スタッフは、戸惑うことはなく、自然に入り込めたようで、更新後は全く問い合わせがありません。安心して使用でき、とても愛着のある良いスタジオが完成したと感じています。最後になりましたが、今回の音声卓導入に尽力いただきました、スチューダー・ジャパンブロードキャスト、関係スタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。